

# うきたむ

## 第60号

### 2022.12.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585

FAX 0238 - 52 - 4665

URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲屋代地区公民館・「大人の社会科見学」



▲押出遺跡出土  
彩漆土器

## 古代人との楽しい語らい ～考古資料は語る～

うきたむ風土記の丘自主事業委員会会長 富樫 とみよ

うきたむ風土記の丘自主事業委員会は、山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館の指定管理者が、利用者の増加や利便性の向上などを目的として、自ら企画し実施する指定管理業務以外の事業を実施しています。考古学セミナーや館長講座などの研修事業や体験学習、「赤ちゃんの手形をつくろう」や「勾玉・弓矢・石器をつくろう」など、新型コロナウイルス感染症のため活動が制限されていますが、特に「赤ちゃん手形」は多くの親子連れにご利用いただいています。

私は考古学や歴史分野の専門家でも研究者でもありませんが、高島に生まれ町内に就職する中で町の歴史に興味と関心を持ちました。国指定史跡の日向洞窟や押出遺跡は郷土の誇りであり、大好きな遺跡です。高島に住む住民の一人として何か役に立ちたいと考え、一昨年から自主事業委員会に参加しています。

数年前、「大人の社会科見学」という公民館事業で考古資料館を見学、参加者が「彩漆土器」にくぎ付けになりました。動物を狩り、木の実を集め、漁でなりたつという縄文時代の生活は、日々飢えとの戦いと思われていたのに、目の前の彩漆土器は、つぼ型のおやかなフォルムに、赤漆に黒漆で渦巻き文様をまとったおしゃやかな姿。目を離せなくなった参加者の多くは、考古資料館初体験。考古学には馴染みがなかったにもかかわらず、古代の技術の高さに驚き、思いもかけない古代の豊かな生活に感嘆の声が挙がりました。

その時私は、考古資料館を知る「きっかけ」、古代の歴史に触れる「きっかけ」があれば、多くの方々が山形の歴史に興味と関心を持つことが出来るのではないか…と思いました。

また、昨年立ち寄った町内の喫茶店で「私が作った勾玉を見て」と話している女性に会いました。周りの方々は「きれい」「どこで作れるの」「この近くにそんな施設があることを知らなかった」と。その様子を見ながら「考古資料館がもつ私たちの身近な場所になれると良いな」との思いも湧いてきました。皆さまもぜひ来館して、古代の山形、現代に通じる優れた古代の文化や技術を知り、体験し「古代人との楽しい語らい」を試してみませんか。当たり前前の山形の風景がきつと違って見えるかもしれません。

## 企画展記念講演会

# 「最上地域の縄文時代」

令和4年11月13日(日)



企画展記念  
講演会は阿部  
明彦氏の「最

上地域の縄文時代」の  
演題で開催されました。  
一・向町盆地の遺跡につ  
いて 二・舟形盆地の遺  
跡について 三・新庄盆  
地の遺跡について 四・  
まとめ という構成でし  
た。

最初は水木田遺跡の重  
要文化財の土器の説明か  
ら始まりました。国内で  
二番目に大きな土器や大  
形の土器の出土状況が写  
真で示されました。この  
土器も含め、押しつぶさ  
れたように出土したもの  
が多く、復元に繋がった  
ということでした。  
また、水木田遺跡で出  
土した東北北部の円筒上  
層b式土器と酒田市の飛

島の蔵山遺跡から出土  
した円筒上層b式土器  
を比べると、水木田のも  
のは文様のシャープさに  
欠け、蔵山の土器は円筒  
土器の担い手が作って直  
接もたらされたものであ  
るのに対し、水木田の製  
作者は円筒土器文化の中  
心地の担い手によるもの  
ではないとのことでした。  
また、大形の土器に  
は煮炊きをした痕跡がな  
く、貯蔵用の土器だった  
のではないかとの考えを  
示されました。  
その後、水木田とほぼ  
同じ時期の熊の前遺跡の  
土器、中期のかっぱ遺跡  
の土器、そして、かっぱ  
遺跡の後期の遺構と土器  
についても説明がありま  
した。後期のかっぱ遺跡  
では竪穴と掘立柱建物跡

で構成される集落と出土  
品の説明がありました。  
次に舟形町の西ノ前遺  
跡の住居跡群と土器、そ  
して国宝「縄文の女神」  
附つぎの土偶についてのお  
話がありました。この時  
期には最上まで北陸系の  
土器が入り込むことを写  
真と実測図で説明されま  
した。  
新庄盆地では中川原C  
遺跡の住居跡と土器、そ  
して、西ノ前と同時期で  
ありながら、多数出土し  
た顔を持つ土偶について  
のお話がありました。金  
山町の本町遺跡では祭壇  
跡と石棒の説明があり、  
その後、中期後葉の鮭川  
村小反遺跡、真室川町釜  
淵C遺跡、中台4遺跡の  
遺構と土器についての所  
見を述べられました。小  
反遺跡では複式炉を持つ  
大形の竪穴や掘立柱建物  
跡を、釜淵C遺跡では住  
居跡と中期の石組遺構を  
紹介されました。



▲企画展記念講演会 阿部 明彦 氏

次に大蔵村の白須賀遺  
跡が取り上げられまし  
た。県指定有形文化財の  
中期中葉の把手状注口土  
器、後葉の深鉢と珍しい  
足形付土製品の紹介があ  
りました。

休憩後、当初メニュー  
にはなかった「女神の秘  
密」のお話があり、縄文  
の女神は「歩く姿を見せ  
ている」こと、よく見る  
と棚畑のビーナスも右足  
を上げ、水木田土偶も右  
足が短い、これらは「歩  
く土偶」であるというこ  
とです。また、女神に付

けられた縄文はRr(0  
段3本撚)でこの時期の  
土器には使われない女神  
用の特殊な原体であるこ  
と、また、化粧土を塗っ  
て肌色にしており、肌色  
へのこだわりが見て取れ  
るということでした。

最後に三脚土製品と原  
の内Aの三角濤形土製品  
についての所見が述べら  
れました。三角土製品  
は「Y」字型に置くべき  
もので、土偶が簡略化さ  
れたものと解釈できるこ  
と、三角濤土製品は馬高  
分布圏に分布の中心があ  
り、県内では思い川A遺  
跡にしかなく、原の内A  
例は二例目であるが、優  
品とのことでした。

### うきたむ学講座

今年度は感染症拡大防  
止の観点から中止させて  
いただきます。ご理解の  
程よろしくお願いいたし  
ます。

# 第二十四期 考古学セミナー

令和4年9月25日／10月2日／10月9日(日)

今回は、「最上地域の縄文時代」と題して全三回開講し、企画展をより深く理解する機会を設けました。以下に内容をご紹介します。

「最上地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺構と遺物」

菅原哲文 氏

(公財)山形県埋蔵文化財センター)

「最上地域の縄文時代早期・前期の遺構と遺物」

渋谷孝雄 (当館館長)

最上地域に分布する縄文時代早期・前期の遺跡について講演いたしました。どちらも、調査例や出土した遺物は多くはないのですが、新庄市を中心に、発掘調査が行われております。

前期の遺跡としては、

新庄市の福田山A遺跡・仁間磯ノ沢B遺跡、大蔵村の上竹野遺跡、真室川町の滝ノ沢山遺跡、最上町の水上遺跡、金山町の本町遺跡などから遺物が見つっております。

「最上地域の縄文時代中期後葉の遺構と遺物」  
「最上地域の縄文時代後期の遺構と遺物」  
水戸部秀樹 氏  
(公財)山形県埋蔵文化財センター)  
水戸部氏からは、前後二回に分けて、講演して

いただきました。

前半は鮭川村の小反遺跡を中心に、縄文時代中期後半の遺跡についてお話していただきました。

後半は最上町のかっぱ遺跡を中心に、縄文時代後期のお話をいただきました。

かっぱ遺跡の遺物は、捨て場と思われる場所の東側から中期のものが集中して見つかっております。後期のものは住居内から出土しております。

「最上地域の縄文時代晩期の遺構と遺物」

小林圭一 氏

(公財)山形県埋蔵文化財センター)

小林氏からは、縄文時代晩期の最上地域についてお話していただきました。縄文時代晩期の東北地方の土器は、亀ヶ岡式土器と総称され、指標遺跡は、岩手県大船渡市にある大洞貝塚です。近隣

の地域とも比較しながら、山形県内の縄文時代晩期の遺跡、及び土器や土偶の変遷について、お話していただきました。

「縄文時代の緑色石英製玉とその分布」

三澤裕之 氏

(秀明大学教授)

元高校教師である三澤氏は、最上町にある材木遺跡から出土する緑色の石について研究しており、従来はヒスイ製と考えられてきた玉、及びその原石が、成分分析の結果、緑色の石英であることをつきとめました。材木遺跡の他にも東北各地及び新潟県に緑色石英と思われる石材を用いた玉、その原石が出土する遺跡が分布しており、今回の講演では、その研究成果をお話していただきました。

絶賛頒布中!

「最上地域の縄文時代」



こちらは縄文の女神国宝指定10周年記念第三十回企画展「最上地域の縄文時代」の展示図録です。縄文の女神が出土した西ノ前遺跡をはじめとする、最上地域の縄文時代遺跡をご紹介します。

展示遺物を全点収録。詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

第一章	縄文時代早期・前期の最上
第二章	縄文時代中期の最上
第三章	縄文時代後期の最上
第四章	縄文時代晩期の最上
第五章	石器の変遷
第六章	緑色石英の流通と埋納された磨製石斧

頒布価格 1,500円



# 上杉家廟所

米沢市 ●江戸時代

## 置賜史跡めぐり (54)

上杉家廟所は、米沢市にある米沢藩歴代藩主の墓所です。昭和五九年（一九八四年）に、米沢藩主上杉家墓所として、国指定の史跡に登録されました。

元和九年（一六三三年）に、二代景勝公が他界すると現在の廟所に埋葬され、以後十二代藩主斉定公までここに埋葬されることになりました。

上杉家は、慶長三年（一五九八年）に越後から



▲ 謙信公御廟

会津若松、さらに慶長六年（一六〇一年）の関ヶ原の戦い後、会津若松から米沢に移動を命じられ、謙信公の霊柩もその都度遷されて、米沢においては米沢城本丸に御堂を建立し祀られました。その後、明治六年（一八七三年）の米沢城解体に伴い、米沢城に安置されていた謙信公の遺骸も、明治九年（一八七六年）、御廟所へ遷されました。

藩政時代の廟所は、二代景勝公を中心に、左右交互に廟が建てられました。廟の前方には、拝殿が造営されています。また、各廟前後や各参道の周囲には、千基を超える石灯籠が並んでいたといわれています。

明治九年に謙信公の遺骸が当地に安置されたことに伴い、中央に謙信公の廟が配され、中央から左へ二代景勝公、四代綱勝公、六代吉憲公、



▲ 歴代御廟所 (左)

八代宗房公、十代治憲公（鷹山公）、十二代斉定公、右へ向って三代定勝公、五代綱憲公、七代宗憲公、九代重定公、十一代治廣公の廟が並んでいます。

謙信公をはじめ、江戸時代初期から後期までの米沢藩歴代の藩主の廟が一つの場所に並置されるのは珍しく、近世大名家墓所の代表例とされています。樹齢四百年を超す老杉も残る杉木立の巨木の中に整然と立ち並ぶ歴代藩主の廟屋は、森厳とした雰囲気を感じています。

## 我が館の展小品 (48)

### 押出遺跡 復元住居

縄文時代前期

●高島町 押出遺跡

押出遺跡の特徴を語る時には必ず「低湿地」「大谷地」の上に集落があったと説明します。

縄文時代の一般的な住居は竪穴住居です。この押出遺跡からは「低湿地」の中にあつた為か、平地式の住居が見つかっています。60cm以上の盛土をして床面とし、盛土の下には「転ばし根太」と呼ばれる丸太を敷いて湿地帯での沈下や湿気を予防しています。

常設展示で押出遺跡の平地式住居を復元して展示しておりますので、古の里歴史公園の竪穴住居と比較して見学してはいかがでしょうか？



▲ 押出遺跡 復元住居